

待降節第2主日 A年  
宣教地召命推進の日

第一朗読 イザヤ 11・1-10  
第二朗読 ローマ 15・4-9  
福音朗読 マタイ 3・1-12

2025.12.7 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
イエズス会 柴田潔神父

説教の初めに、少し近況報告させていただきます。多分 2015 年頃、第3修練から帰ってきた後、たまたま吉池神父さんに会いまして、またミサを頼めますかということがあり、2015 年にお邪魔していた時期があったと思うんですが、それから 5 年ほど山口県の周南市の、主に幼稚園の仕事をしていました。そして 2015 年 4 月に、急に四谷の教会に呼ばれることになります。で、元々あちらの教会とても大きくてちょっとご遠慮したい気持ちがあったんですけども、人がいないということで呼ばれてしまい、モーレツサラリーマンのような生活をしています。

たとえば、昨日は、個人の洗礼勉強会——親子勉強会——を3組した後、急に 18 時のミサがちょっとしんどいから代わってと言われてミサをし、その時間に本当は今日の黙想会の準備をしようと思ったんですけどできなくなってしまい、ちょっと頭がぼーっとしていたので、いつものように教会の芝生を 30 周——約 3km ぐらいですか、15 分走って、やる気を出そうと思って仕上げたら夜の 2 時ぐらいになっていたという感じなんですけれども、この走ることと、月に2回の成分献血、これをしてればまだ働けると自分自身暗示をかけております。おかげ様で元気にしておりますけれども、これだけ司祭としての仕事をさせていただける教会ってのはなかなかないなと思いつつ、もう少し神父さんが増えて欲しいなという気もしております。

さて、今日は2つのお話をさせていただきます。

1つ目はゆるしの秘跡について、もう1つは洗礼者ヨハネの役割についてです。

悔い改め、あるいは罪を見つめるというと、ネガティブな気持ちになる方も多いと思います。ただ、教会は罪と罰をセットで考えるのではなく、罪と恵みをセットで考えます。罪の状態というのは神様からの恵みから離れてしまっている状態です。どんな時に離れてしまうかという、たとえば、これだけ働いているのに周りは認めてくれないとか、やっているのに足りないところを指摘されるとか。そうすると、だんだんと人との関わりを避けてしまう。自分も認められないし、人と関わるのも怖くなってしまいうし。そうすると、罪の状態——神の恵みから離れる状態になってしまいます。

このゆるしの秘跡、わたしの人生にとっても大きな影響を与えてくれると思う人もいれば、型通りであり変化もない、義務的にしているという方もおられると思います。そんな方に向けて告白を3つに分けたらいいという提案が、ある聖書学者からありました。

#### 1つ目、感謝の告白。

わたしたちはゆるしの秘跡という、どこが至らなかったのか、精一杯頑張っているのにまだ神様は要求されるのか、そう身構えてしまうこともあります。

そうではなくて、まず神様に感謝すること、神様に賛美できることを思い浮かべます。わたしの人生に神様はどのように関わってくださったか、また、これからも励ましてくださるのか、そんなことをまずゆるしの秘跡の初めにしてみます。

#### 2つ目は生活の告白です。

日頃の生活の中で、自分はダメだとかあの人とはうまくいかないとか、心に重くのしかかっていること、また自分の至らなさを、神父様の前でありのままに打ち明けます。

罪の状態に陥るいくつかのポイントがあります。それは、たとえば人と同じでないとダメだとか、完璧でないとダメだとか、そういう<sup>くびき</sup>軛、縛りです。それぞれお持ちかと思います。そのような縛りが、実は妨げです。神様に向かう道を妨げています。場合によっては一所懸命やろうという使命感かもしれませんし、もう体力的に厳しくなっているのにさらに自分に鞭を打って頑張らなきゃいけないという気持ちかもしれません。

この妨げの反対は助けです。昨日、勉強会が終わった後、地下で育てているカブトムシの幼虫を見せて、と言う年中の女の子がいました。わたしの手を取って「早く、早く」とせかしてくれたんですけれども、子どもさんの手を握ると、気持ちも和らぐ。疲れていた心がなくなって、「もうひとつ頑張ろう」、そんな気持ちにさせてもらいました。その子、すごくカブトムシが好きな女の子なんですけれども、幼虫が今約 300 匹地下にいまして、2 匹持って帰りましたけれども、この子がどういうふうにカブトムシを育ててくれるかなとか、そういうことを考えるのもわたしの楽しみのひとつです。助けがどこにあるかを探して、妨げを脇にする。これが 2 つ目のポイントです。

3 つ目は信仰の告白です。

「神様、わたしはこんなに弱いですが、どうか受け入れてください。あなたに最後までついて行きたいのです」。自分の信仰告白を、最後にします。

ゆるしの秘跡を授ける神父様、聴罪司祭は、皆さんに神様の愛とゆるしを伝えたいと思っては告解室に座っておられます。どうか神父様がたにもゆるしと平和が信者さんに届くように。頑張りたいと思っています。

2 つ目の話は洗礼者ヨハネの役割です。

ご存知のようにイエス様の先駆がけです。「自分の洗礼はあとから来る聖霊と火による洗礼によって完結する。自分は道案内だ」とヨハネは言っています。このヨハネの生き方から連想する四字熟語があります。「雲散霧消」。雲や霧が消えるように、物事が跡形もなく消え去ること。洗礼者ヨハネは、自分が脚光を浴びるのではなく、後から出てくるイエス様に席を譲ります。

ある神父様はこう言われてました。男性は名誉心から抜けにくい。司祭になっても名誉心が根強く残っている。自分の名を知らしめたい。注目を浴びたい気持ちは司祭になっても残っている。わたし自身も考えさせられる言葉です。

わたしが好きな野球でたとえれば、打席に入ると、全部送りバントのサイン。たまには自由に打ちたいのに、でもチームの勝利のために確実に送りバントを繰り返し、なんとか勝っていく、そんな気持ちが大事なんじゃないかなと思います。

自分をではなく、イエス・キリストを述べ伝える。自分がではなく、後ろに下がって、信者さんの信仰を浮き上がらせる。自分は消えていく。それでいい。そんな洗礼者ヨハネの生き方にわたしたちも倣っていきましょう。

神様の恵みに立ち戻る回心。そして自分を無にして道案内に徹する。そんなわたしたちになれるように、ミサを続け、また黙想会に与ってまいりましょう。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>